

景気動向調査

全産業ほぼ横ばいの推移を示す

平成30年10月～12月 中小企業景況調査 結果報告書

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。

平成30年10月～12月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。今回の回収率70.0%

【主要な表現について】

○業況判断:調査対象企業が自らの業績に下した判断。 ○DI値:(増加・好転と回答した割合)－(減少・悪化と回答した割合)
悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表1):全産業での業況は、DI値▲12.3で前回(H30年7月～9月)より0.6ポイント改善。全産業で横ばいの推移を示しました。

全産業売上高の推移:前回▲12.3ポイント(H30年7月～9月)から2.2ポイント改善しました。

サービス業、建設業が改善傾向。他業種はいずれも減少傾向を示しました。

全産業資金繰りの動向:前回▲8.6ポイント(H30年7月～9月)から1.4ポイント改善しました。

長期・短期借入難度は改善傾向を示したが、全産業いずれも減少傾向を示しました。

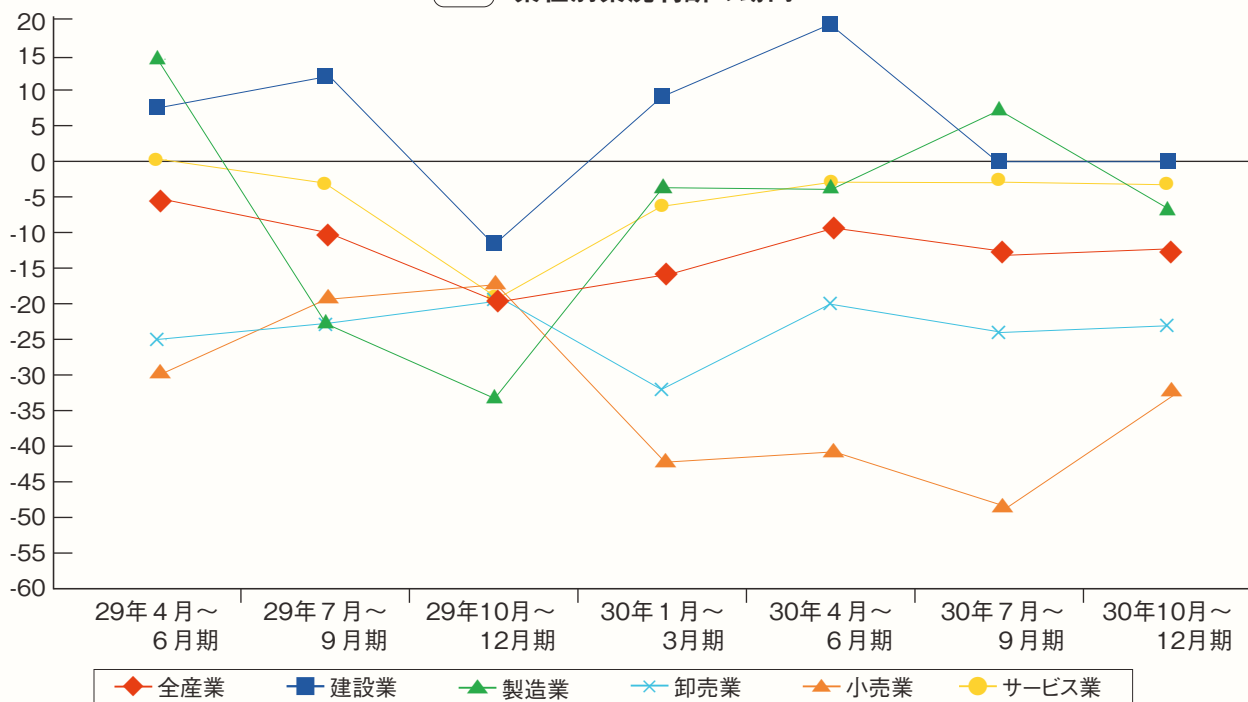
全産業採算の動向:前回▲21.6ポイント(H30年7月～9月)から1.9ポイント改善しました。

全産業、商品仕入単価が悪化傾向によりいずれもマイナス域を示しました。

全産業雇用人員の動向:前回4.5ポイント(H30年7月～9月)から6.8ポイント悪化しました。

各業種いずれも熟練従業員の確保が課題としてあげられました。

表1 業種別業況判断の動向



問合せ先 藤枝商工会議所 経営支援課第一課 TEL: 054-641-2000